

「今月の言葉」小さな手を合わせ、お墓で無心に祈る帰省した孫、暑い夏が終わる頃、衆議院選挙が始まった。三〇日、深夜には民主党が圧勝する結果となった。翌日、事業所で利用者「選挙にいったの？」と聞いてみたら大半が「行ってきました」と。この方々も一票を持っている。障害者自立支援法で翻弄された利用者の将来はまた再び翻弄されることか、見守りたい。

〔文〕表紙 遠藤節子



【絶対の基本理念】 最終目標であるホスピス建設に向け、新たな歩みを踏み出した私たちの絶対の基本理念として明文化し、支援の拠りどころと致します。

無私(私が、私のがの心のないこと)
愛(大切にする心、思いやる心)
内省(深く自分をかえりみること)

8

月号

2009年8月15日発行
VOL.11 NO.8
(通巻106)

皆勤賞、夏季賞与の支給

TSK おりいぶ人



社会福祉法人 ^{あいとく} 愛篤福祉会・^{おりいぶ} 工房阿列布
〒973-8407 いわき市内郷宮町峰根 65-187
TEL.0246-36-3944 FAX.0246-36-3922
e-mail : olive-f@amber.plala.or.jp

千
草
群
像

公約の重み

遠藤節子 (工房阿列布管理者)

エルサレム賞の受賞スピーチで人間を「卵」、そして組織的権威、制度などを「システム」と暗喩した作家の村上春樹の言葉は今に嵌る。「個性の詰まった壊れやすい卵は人間、自分たちの前にあるシステムで幾個の卵が壊れ踏みつぶされたか、しかしながら壁もまた自分たちの作り上げたもの、どちらを選ぶかといえば、私は卵のほうを選択し生きる」と言う。

争いの最中のイスラエルとパレスチナでイスラエル側に一石を投じた発言だった。

今回の選挙で言えば、与党の議員が与党を窘(たしな)め、覚醒を迫る行動に本気で出なかった、つまり卵は壁にぶつかる熱意に欠けていたことになる。今回、卵たる国民が「ダチョウの卵」と化し、長期政権の壁を砕いたといわねばならない。平成維新ともいわれた政権交代劇、歴史は繰り返した。

明治維新の立役者、西郷隆盛の言葉に「民を豊かにするには、租税を薄くすること、国が財用不足に悩む時、まず上の費用を減じ、下を虐げざるが肝要」とある。民主党は、まずそれをやろうという意気込みが国民に伝わり、勝利の決め手になったのではないだろうか？

税金の無駄遣いとされる官僚の天下り、公務員の安泰意識、公共事業するなど、財源不足に与党は説得力を欠いていた。始めに政権与党の自浄努力でしようというのが普通の考えで、一敗地に塗れたのも其処かなという感もする。

雲から離れた「月」の勢いの民主党、国民は夜明けを待っている。途中の解散がなければ、任期4年という期限でマニフェストを果たす責務は困難を極めるだろうが、国民にした「季布の一諾」だ。

TSK
おりいぶ人
1部 ¥100
(会員は会費に含む)

毎月15日発行
編集者 〒973-8407 福島県いわき市内郷宮町峰根65-187
社会福祉法人愛篤福祉会 工房阿列布
発行所 〒981-0907
宮城県仙台市青葉区高松1-4-10
東北障害者団体定期刊行物協会

おりいぶ1号館 〒970-1151 いわき市好間町下好間字鬼越24-10 TEL.0246-36-3976・FAX.0246-36-3986
茶房おりいぶ 〒970-8026 いわき市平字中町7-2 TEL・FAX.0246-25-3977

おりいぶ後援会は、工房 阿列布を市民の立場から物心両面で支援するボランティア団体です。

皆勤賞 夏季賞与 の支給

八月十二日、お盆前の最終日に皆勤賞と夏季賞与を支給しました。

四ヶ月間無欠勤の皆勤賞は、十一名と今までになく多くの利用者さんが受賞されました。(事業所として大変嬉しいことです。)

また、厳しい経済状態の中で売上も横ばいでしたが、何とか賞与の支給も出来ることになり、喜ぶ利用者さんの顔を見ることが出来ました。



農芸グループ 就労支援



夏野菜の収穫も一段落しようとしています。今年は、保護者さんのボランティアもあり、例年に無く多くの収穫を得ることが出来ました。

給食やおりにぶ一号館の食材に留まらず、朝採り野菜として直接販売し、その売上で、利用者工賃を増やすことが出来ました。

農芸グループでは、今年の状況を踏まえて、畑の活用に向けて新しい野菜の植付けや花の種苗の植付けに取り組んでいます。

政権交代

八月三十日、選挙が終わり、民主党が大勝、政権が交代しました。

民主党のマニフェストを見ると、障がい者福祉について、小さく「障害者自立支援法」を廃止して、「障がい者総合福祉法(仮称)」を制定すると書いてありました。必要な予算は四百億円程度。

利用者負担の見直し(原則一割負担から障がい者などの収入に応じた負担とする。)や事業所へのサービス提供報酬の確保(自立支援法の施行により減収となった分を補填し、自立支援法施行前の収入を保障。)など利用者やご家族、福祉関係者が要望したものが盛り込まれています。

また、現場の職員がいつも疑問に感じている障害程度区分(介護保険の要介護認定を基に作られた基準。)や認定の在り方そのものも見直されるようです。

今後、民主党政権が進める障がい者福祉政策には、是非、ご家族の悲願である、障がい者の「親なき後の施設」が早期に実現できるよう期待したいです。

個別支援計画作成

個別支援計画の見直し、下半期の計画作成のための面談を、一ヶ月早めて今月実施しました。利用者さんやご家族の多くは、余暇支援の充実を希望しており、阿列布では毎月の社会体験旅行に加え、旅行の企画を始めました。



秋のイベントシーズン到来

色々なイベントに参加します。

平バプテスト教会バザー

■日時：平成21年10月31日(土) 午前10時～

毎年恒例の平バプテスト教会のバザーに参加します。アクセサリーやケーキ、パンなどを販売する予定です。お気軽にお越しください。

子育て地蔵尊まつり

■日時：平成21年9月12日(土) 午後6時～

今年も秋祭りのシーズンがやってきました。阿列布では今年も地元にある子育て地蔵尊まつりに参加することになりました。

お近くの方は是非、ご家族お揃いでお出かけください。



寄附者名簿(物品寄附含む) 平成21年8月

吉田京子様、箱崎和雄様、小林伸子様、株式会社杉山様、桐原芳照様、栗原淳子様、常磐パッケージ株式会社様、岡田綱一様、高瀬勝皓様、根本清勝様、遠藤法子様、影山和弘様、白川順様、人見常男様、菅野モト子様、鈴木修様、菊池紀美江様、三島加津子様、小笠原由緒子様、星次男様、斎藤信子様、金田静子様、遠藤睦子様、瀧本陸三様、山岸和子様、梶山ゆふ子様